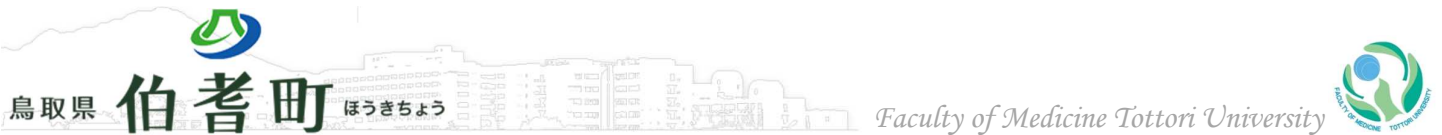
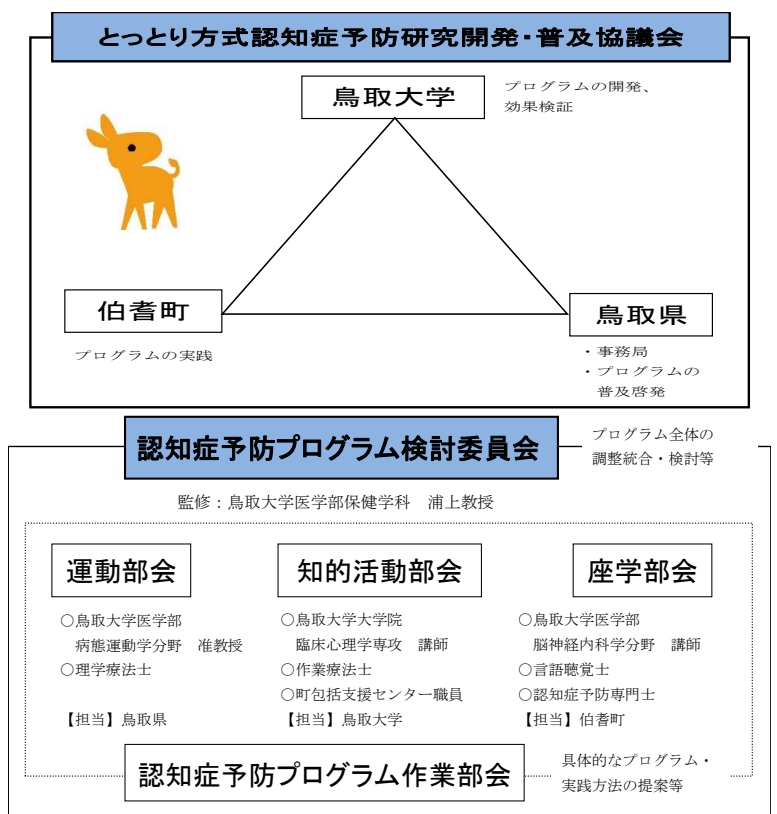


とっとり方式認知症予防プログラム の開発研究

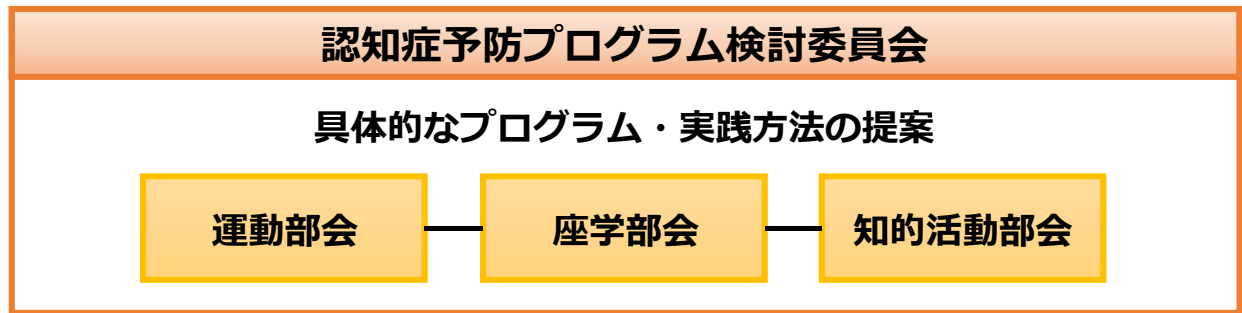


とっとり方式認知症予防プログラムの 開発・実証事業とは？

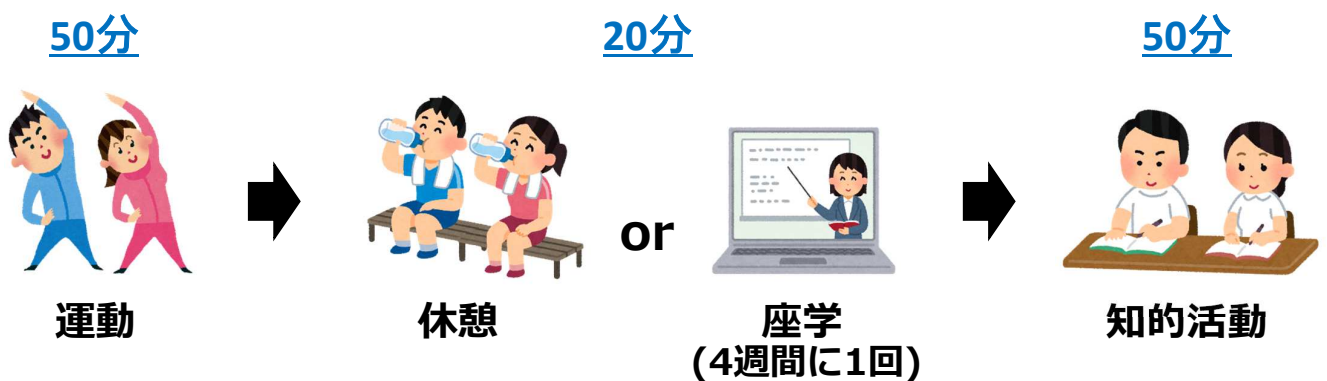
- 2016年度から、日本財団との共同プロジェクトとして、鳥取大学・伯耆町・鳥取県が連携し、本県独自の認知症予防プログラムの開発に着手。
- 鳥大・伯耆町・鳥取県で協議会を設置し、研究職、医療・福祉職、リハビリ専門職等が「運動」「知的活動」「座学」の各作業部会に分かれ、多職種の専門家による知見を生かした本県独自の認知症予防プログラムを開発。
- 2017～2018年度の2ヶ年度にわたり、伯耆町の高齢者136人を対象にこのプログラムを実施し、実施前後の認知機能や身体機能等の測定データを比較・分析。



とっとり方式認知症予防プログラム

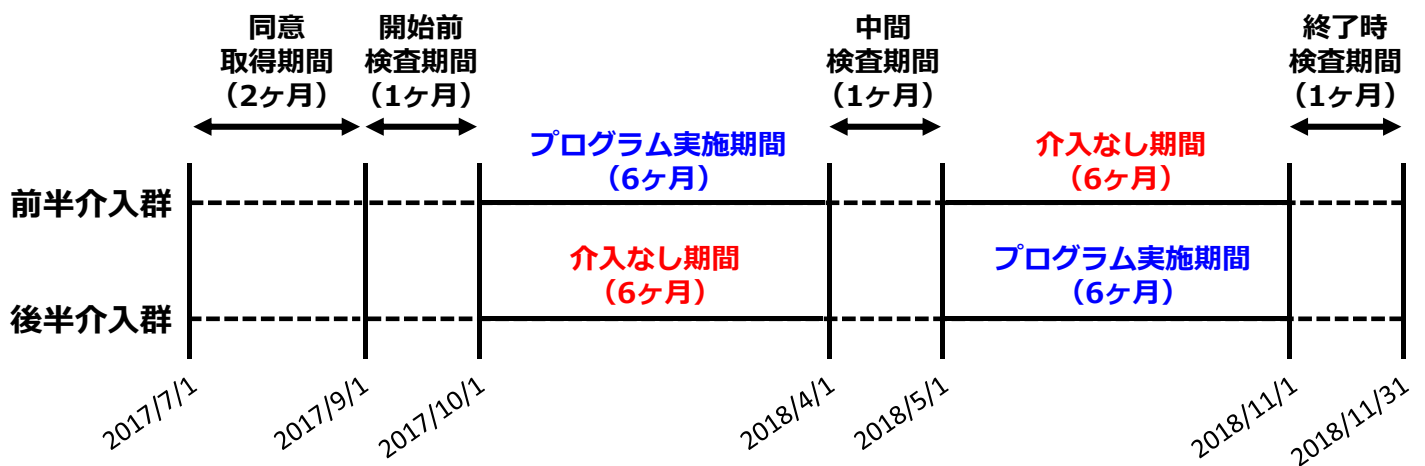


『週1回2時間・24週間実施（1教室 12-15人）』



3

実証のスケジュール・評価項目



評価項目

1. 問診
2. 血圧測定
3. 身体機能評価（上肢筋力、下肢筋力、平衡性、柔軟性）
4. 認知機能検査（Touch Panel-type Dementia Assessment Scale : TDAS）
5. 頸動脈エコー検査
6. 生活習慣に関するアンケート調査
7. 血液検査（総コレステロール、クレアチニン、尿素窒素、HDL、LDL、血糖、HbA1c、中性脂肪、総蛋白、アルブミン）
8. MRI検査（※中間検査は無し）

4



(株式会社フリールの移動式MRIで撮影)

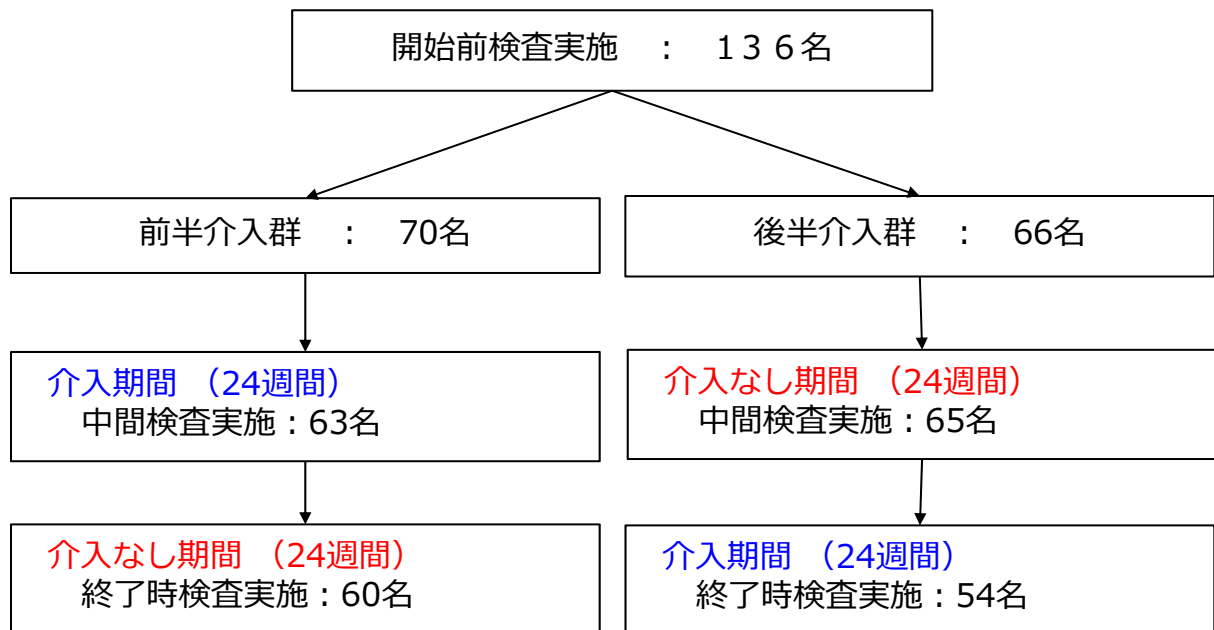


(鳥取県保健事業団に依頼)



2会場（溝口公民館、岸本保健福祉センター）で3日間検査を実施

検査実施状況



【対象者の選定基準】

65歳以上の方で、かつ2016年4月1日から2017年8月31日までに伯耆町で行った、タッチパネル式コンピュータを用いた簡易認知機能スクリーニング法（もの忘れ相談プログラム）の点数が13点以下かつ10点以上だった方（検査に同意された147名のうち、同意を撤回された方6名及び全検査を実施できなかった方5名を除く136名）

※ 24回の教室のうち出席回数が15回以下だった者は教室出席日数不足とした

※ 検査を全て実施できなかった対象者も同意撤回の意思表示が無い場合は研究を継続した

プログラムの詳細

7

運動プログラム

- **準備運動（10分）**
 - 深呼吸、肩甲骨運動、体幹回旋、骨盤運動、下肢ストレッチ
- **有酸素運動、筋力運動（35分）**
 - 片脚立位、足踏み、足踏みしながら認知課題を行う、椅子スクワット、サイドステップ、歩行
- **整理体操（5分）**
 - 深呼吸、肩甲骨運動、体幹回旋、骨盤運動、下肢ストレッチ



(成果物：運動のDVD作成)



足踏み+グーパー



大きく深呼吸

8

準備運動



深呼吸、肩甲骨運動、体幹回旋、骨盤運動、下肢ストレッチ など



9

有酸素運動



片脚立位、足踏み、足踏みしながら認知課題を行う、歩行 など



10



筋力運動

足踏みしながら認知課題を行う、椅子スクワット、サイドステップ など



整理体操

深呼吸、肩甲骨運動、体幹回旋、骨盤運動、下肢ストレッチ など



お疲れさまでした！

座学プログラム

座学のテーマ	
導入	教室を始めるにあたって
1回目	認知症とは
2回目	認知症 ～生活習慣病編～
3回目	認知症予防 ～生活習慣編～
4回目	認知症予防 ～社会交流編～
5回目	早めの相談・対応 ～気付いた時の第一歩～
6回目	認知症予防のできる町づくりを目指して

※導入部の内容は、運動や知的活動が認知症予防には有用であるというものであり、プログラム実施の初回の時に放映し、対象者へ本研究の意図を理解してもらう意図で実施。



(成果物：座学のDVD作成)

座学 第6回目
「認知症予防のできる町づくりを目指して」
月 日 ()

<メモ>

<今日のまとめ>

予防には段階がある (3段階)

第1次予防：病気の発症予防

～運動(生活習慣)・知的活動・コミュニケーション～

第2次予防：早期発見・早期治療・早期のケア

～検診の必要性・温かい家族や周囲のケア～

第3次予防：病気の進行防止(症状の緩和)

目指すは・・・

認知症になっても安心して暮らせる町づくりも含めた、「**認知症予防のできる町づくりを！！**」
誰もが住みたい町にしていこう。

(成果物：メモ用資料)

導入
教室を始めるにあたって

鳥取大学医学部保健学科 教授
日本認知症予防学会 理事長
浦上 克哉



座学プログラム概要

● 導入：教室を始めるにあたって

『認知症予防の可能性と重要性を紹介』

鳥取大学医学部保健学科・教授 浦上克哉先生



● 1回目：認知症とは

『認知症の定義や症状を紹介』

鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経内科学分野・講師 和田健二先生



● 2回目：認知症 ～生活習慣病編～

『生活習慣病を中心に認知症発症に関連する因子を紹介』

鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経内科学分野・助教 足立正先生



● 3回目：認知症予防 ～生活習慣編～

『認知症予防に効果的な生活習慣を紹介』

鳥取短期大学生活学科食物栄養専攻・教授 野津あきこ先生
鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経内科学分野・助教 足立正先生



● 4回目：認知症予防 ～社会交流編～

『認知症予防における社会的交流の重要性やコツを紹介』

鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻・准教授 竹田伸也先生



● 5回目：早めの相談・対応 ～気付いた時の第一歩～

『認知症の早期発見・相談の場・関連制度を紹介』

渡辺病院・理事長 渡辺憲先生



● 6回目：認知症予防のできる町づくりを目指して

『地域包括ケアシステムにおける認知症予防を紹介』

鳥取大学医学部保健学科・教授 浦上克哉先生



導入：教室を始めるにあたって



鳥取大学医学部保健学科・教授
浦上克哉先生

軽度認知障害

(Mild cognitive impairment: MCI)

正常と認知症の移行状態

正常 → MCI → 認知症 (AD)

MCIの状態なら 予防が可能

軽度認知障害や軽度の認知症を
早期発見するためには？

認知症検診と予防

予防の概念

- 第1次予防 病気の発症予防
- 第2次予防 病気の早期発見・早期治療
- 第3次予防 病気の進行防止

これからの認知症対策

認知症になっても安心して暮らせる町づくり

↓
認知症予防ができる町づくり

『 認知症予防の可能性と重要性を紹介 』

1回目：認知症とは



鳥取大学医学部脳神経医科学講座
脳神経内科学分野・講師
和田健二先生

認知症とは

一度正常に発達した認知機能が後天的な脳の障害によって持続的に低下し、日常生活や社会生活に支障を来すようになった状態を言い、それが意識障害のないときにみられる。

認知機能低下 → 生活障害

手段的日常生活動作 (IADL)

認知機能の衰え

- ① 記憶する能力の低下
- ② 判断力の低下
- ③ 視空間機能の低下
- ④ 言語機能の低下
- ⑤ 人格、行動の変化

認知症の行動・心理症状 (BPSD)

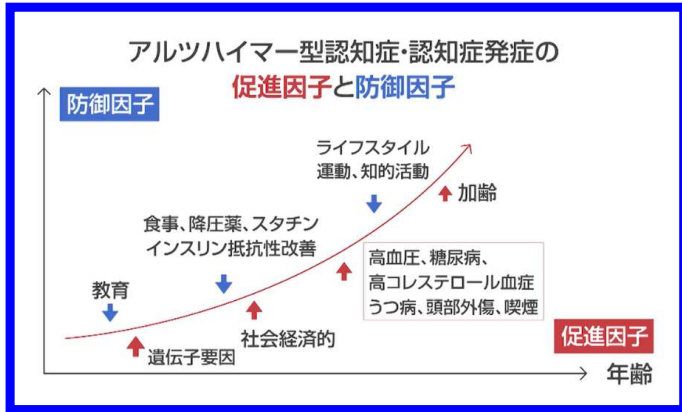
心理症状	行動症状
<ul style="list-style-type: none"> ・妄想 ・幻覚 ・睡眠障害 ・抑うつ ・不安 ・誤認 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的攻撃性 ・徘徊 ・不穏 ・焦燥 ・逸脱行動・性的脱抑制 ・落ち着きのなさ・叫声
(面接によって評価)	(観察によって評価)

『 認知症の定義や症状を紹介 』

2回目：認知症 ～生活習慣病編～



鳥取大学医学部脳神経医科学講座
脳神経内科学分野・助教
足立正先生



① 糖尿病

- 糖尿病患者さんのアルツハイマー型認知症発症の危険は**約2倍**
- 糖尿病の治療で、老人斑(しみ)が減少する

② 高血圧

- 高血圧治療で血管性認知症の危険を**5割減少**、アルツハイマー型認知症の危険を**6割減少**
- **140/80mmHg** 以下を目標
- 減塩食: **塩分6g/日以下**

③ 高コレステロール血症

- 高コレステロール血症があると認知症のリスクが**約2倍**になる
- 肥満、高血圧、高コレステロール血症があると認知症のリスクが**約6倍**になる
- メタボ 男性85cm以上、女性90cm以上
腹囲診断基準

『生活習慣病を中心に認知症発症に関連する因子を紹介』

17

3回目：認知症予防 ～生活習慣編～



鳥取短期大学生生活学科 鳥取大学医学部脳神経
食物栄養専攻・教授 医科学講座脳神経
野津あきこ先生 内科学分野・助教
足立正先生

クイズ!!

問題 つぎのうち、認知症を防ぐ食事や食法として知られているのは、次のうちどれでしょうか？

- ① 地中海式食
- ② 炭水化物ダイエット
- ③ DASH(ダッシュ)食
- ④ MIND(マインド)食
- ⑤ 和食

地中海式食事をとる



認知症を予防する栄養素など

～今までの研究でわかっていること～

- ① 多価不飽和脂肪酸と魚類に含まれる脂質をとる
- ② 飽和脂肪酸をとりすぎない
- ③ ビタミンB₆、ビタミンB₁₂、葉酸をとる
- ④ 抗酸化ビタミン類(ビタミンC、ビタミンE)をとる

運動

- ・有酸素運動:**散歩が一番**
 - ・週3-4日
 - ・1日30分
 - ・楽しみながら、会話しながら
 - ・ひらめきウォーキング
 - ・コグニサイズ
- cognition (認知) と exercise (運動)

趣味

- ・人と話しながら
- ・他人とするもの
- ・手を動かすもの
- ・体を動かすもの
- ・中年期に開始する



『認知症予防に効果的な生活習慣を紹介』

18

4回目：認知症予防 ～社会交流編～



鳥取大学大学院医学系研究科
臨床心理学専攻・准教授
竹田伸也先生



人との交流が、認知症の発症に影響を与えます。

社会的孤立 = 危険因子

豊富な社会的交流 = 防御因子



「自発的に人とかかわりたくない」人はどうすればよいのでしょうか…



POINT そうした自分の気持ちにもかかわってあげましょう(だからダメって否定せず)



POINT 「〇〇すべき」ではなく、「〇〇できたらいいな」くらいの軽い気持ちで。



POINT 目標はできるだけ小さく。(お店で店員に声をかけるのも立派な交流!)

対応法!!!



認知症の人にとって心地よい関わり



POINT 相手の世界に合わせた対応

興奮している時はほとぼりが冷めるまで距離を置く。
妄想には、否定も肯定もせず中立的な対応を。

キーワードは「自発的」

- 受け身ではなく自発的にする活動の方が認知症予防に効果的です。
- やりたくないことを無理にするのは、ストレスを強めるので逆効果です!



誰かと1日1回以上、自分から話をしよう

『認知症予防における社会的交流の重要性やコツを紹介』

5回目：早めの相談・対応 ～気付いた時の第一歩～



渡辺病院・理事長
渡辺憲先生

1. 認知症に早期に気づくポイント

1) 認知機能の衰えに気づく(以下の変化に注目)

- ① 記憶障害の程度は、2～3年前ならちゃんとやっていた日常生活の活動ができにくくなっていませんか?
- ② 買い物など少し離れたところに出かけた時、迷うことはありませんか?
- ③ おつり、両替の計算などがきちんとできますか?
- ④ 同じものを二重に買ったり、必要な物を買忘れませんか?
- ⑤ 少し複雑な内容の家事、趣味などが続けて出来ていますか?
- ⑥ 服を着たり、髪を整えたり、トイレ、食事などがきちんとできていますか?

2. 気づいた時に早めの相談

- ① かかりつけ医・『認知症かかりつけ医』
- ② 専門医療機関
(「物忘れ外来」等の専門外来、精神科、神経内科、老年科など)
- ③ 認知症疾患医療センター
(地域型 4:東部1、中部1、西部2; 基幹型 1:鳥取大学医学部附属病院)
- ④ 市町村地域包括支援センター
(認知症初期集中支援チームも一部活動を開始)

3. 地域におけるつながりの輪の広がり

- ① かかりつけ医と介護支援専門員(ケアマネジャー)
(医療と介護のコーディネーター)
- ② かかりつけ薬局
(治療薬について、健康について身近に相談できる場)
- ③ 市町村地域包括支援センター
(認知症をもちながら地域で元気に暮らすための相談の場)
- ④ 地域のボランティア
(「オレンジカフェ」など集い活動できる場、支援の人)



『認知症の早期発見・相談の場・関連制度を紹介』

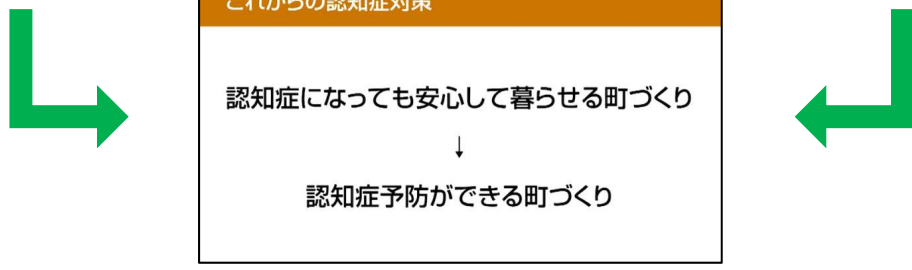
6回目：認知症予防のできる町づくりを目指して



鳥取大学医学部保健学科・教授
浦上克哉先生



- 自助**
- ・介護保険・医療保険の自己負担部分
 - ・市場サービスの購入
 - ・自身や家族による対応
- 互助**
- 費用負担が制度的に保障されていないボランティアなどの支援、地域住民の取組み
- 共助**
- 介護保険・医療保険制度による給付
- 公助**
- ・介護保険・医療保険の公費(税金)部分
 - ・自治体等が提供するサービス

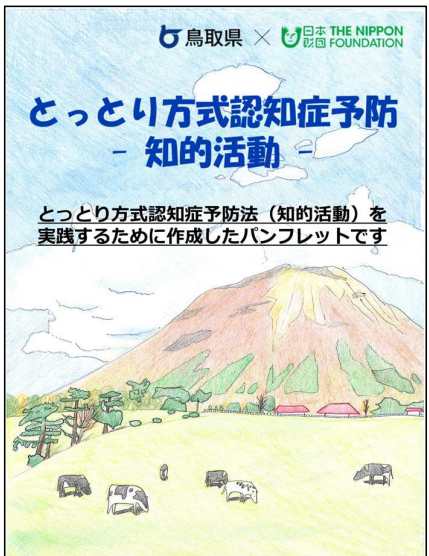


『地域包括ケアシステムにおける認知症予防を紹介』

21

知的活動プログラム

	1週目	2週目	3週目	4週目
導入部 (10分)	年月日確認 一言で答える課題	年月日確認 一言で答える課題	年月日確認 一言で答える課題	年月日確認 一言で答える課題
個人で行う知的活動 (15分)	近時記憶課題 (記憶力ゲーム)	視空間認知課題 (貼り絵、塗り絵)	作業記憶課題 (クロスワード)	注意課題 (文字探しゲーム)
全体で行う知的活動 (20分)	遂行力課題 (手指を使うゲーム)	計算力課題 (数字を使うゲーム)	判断力課題 (お手玉遊び)	思考力課題 (歌詞合わせゲーム)
感想 (5分)	教室の振り返り	教室の振り返り	教室の振り返り	教室の振り返り
	5週目	6週目	7週目	8週目
導入部 (10分)	年月日確認 一言で答える課題	年月日確認 一言で答える課題	年月日確認 一言で答える課題	年月日確認 一言で答える課題
個人で行う知的活動 (15分)	遂行力課題 (カレンダー作り)	計算力課題 (計算問題)	判断力課題 (パズル)	思考力課題 (50首作文)
全体で行う知的活動 (20分)	近時記憶課題 (カード合わせ)	視空間認知課題 (文字あてゲーム)	作業記憶課題 (塩・ゴマせんべい)	注意課題 (音あてゲーム)
感想 (5分)	教室の振り返り	教室の振り返り	教室の振り返り	教室の振り返り



(成果物：パンフレット作成)

※ 「認知機能を使う刺激を与える活動」を、本研究の知的活動の定義とする。
 ※ 導入部は、年月日確認と「昨日の晩御飯は何でしたか？」というような一言で答えてもらえる課題を行う。
 ※ 8週を1セットとして、同じ内容を3セット(24週)行う。



知的活動プログラム概要

- 8週を1セット
- 活動内容は断定しない
- 個人で行う活動と全体で行う活動



『 様々な認知機能をまんべんなく刺激する内容 』

23

知的活動プログラム

近時記憶課題

近時記憶の定義

情報の記録 (覚えること) から想起 (思い出すこと) に至る間に干渉が入る記憶。

近時記憶をよく使う知的活動

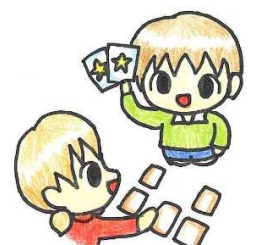
個人で行う知的活動

- 記憶力ゲーム など



全体で行う知的活動

- カード合わせ (神経衰弱)
- 遅延再生課題 など



24

視空間認知課題

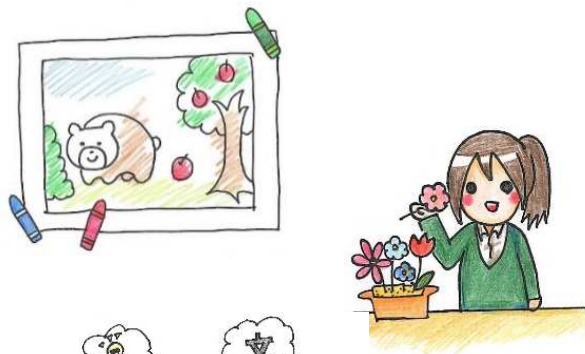
視空間認知機能の定義

空間の全体的なイメージを把握するための能力。

視空間認知機能をよく使う知的活動

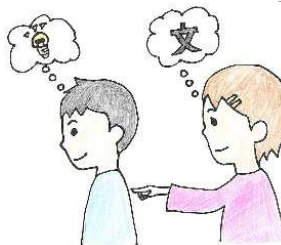
個人で行う知的活動

- 貼り絵・塗り絵
- 園芸療法 など



全体で行う知的活動

- 文字あてゲーム
- シルエットあてゲーム など



作業記憶課題

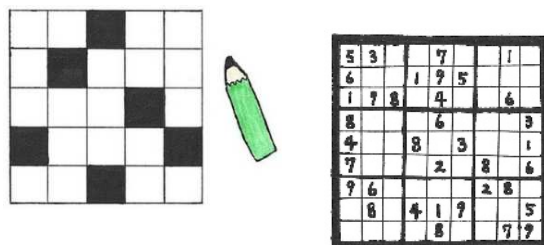
作業記憶の定義

頭の中で作業を行うとき、必要な情報を一時的に保持しながら処理を行う能力。

作業記憶をよく使う知的活動

個人で行う知的活動

- クロスワード
- ナンバープレイス など



全体で行う知的活動

- 塩せんべい・ゴマせんべい
- 数字の逆唱 など



注意課題

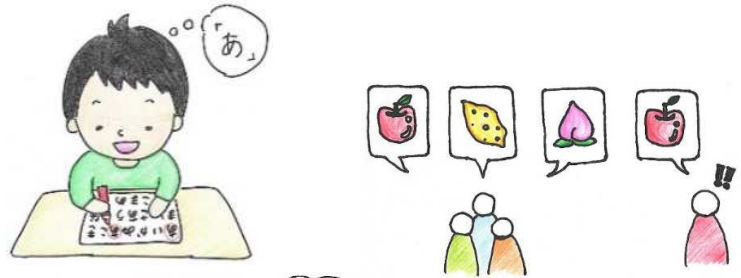
注意機能の定義

1つのことを続けたり、雑多な刺激から特定の刺激を選んだり、複数のことに同時に注意を向けたりする能力。

注意機能をよく使う知的活動

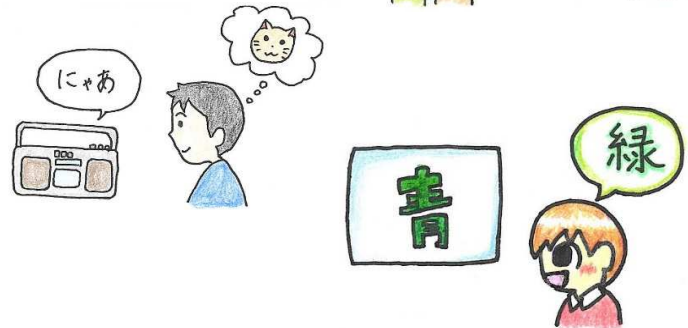
個人で行う知的活動

- 文字探しゲーム
- 迷路・点つなぎ
- 間違い探し
- 手芸 など



全体で行う知的活動

- 音あてゲーム
- 声あてゲーム
- ストループテスト など



27

遂行力課題

遂行力の定義

物事を計画したり、順序立てたり、効率的に進められるように優先順位をつけたりと、目的を成し遂げるために必要な能力。

遂行力をよく使う知的活動

個人で行う知的活動

- 年間カレンダー作り
- 折り紙 など



全体で行う知的活動

- 手指を使ったゲーム
- じゃんけんゲーム
- 竹太鼓
- ペットボトル箸だしゲーム など



28

計算力課題

計算力の定義

数を理解して足し算、引き算、掛け算、割り算といった計算をする能力。

計算力をよく使う知的活動

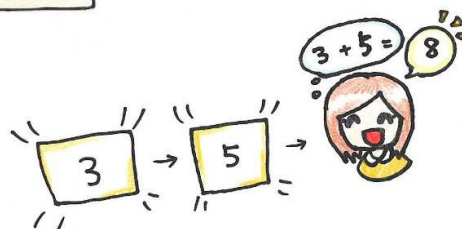
個人で行う知的活動

- 計算問題 など



全体で行う知的活動

- 数字を使うゲーム
- 点取りルーレット など



判断力課題

判断力の定義

物事を正しく認識し、目的や条件に応じて必要なものを選択する能力。

判断力をよく使う知的活動

個人で行う知的活動

- パズル など



全体で行う知的活動

- お手玉遊び
- 風船バレー
- グラグラやぐら
- 輪投げ
- ペットボトルボーリング など



思考力課題

思考力の定義

観察や記憶によって頭の中に蓄えられた情報を整理したり、結合して新しい関係を作り出す能力。

思考力をよく使う知的活動

個人で行う知的活動

- 50音作文
- ひらがなゲーム
- 川柳 ● 漢字ドリル など



全体で行う知的活動

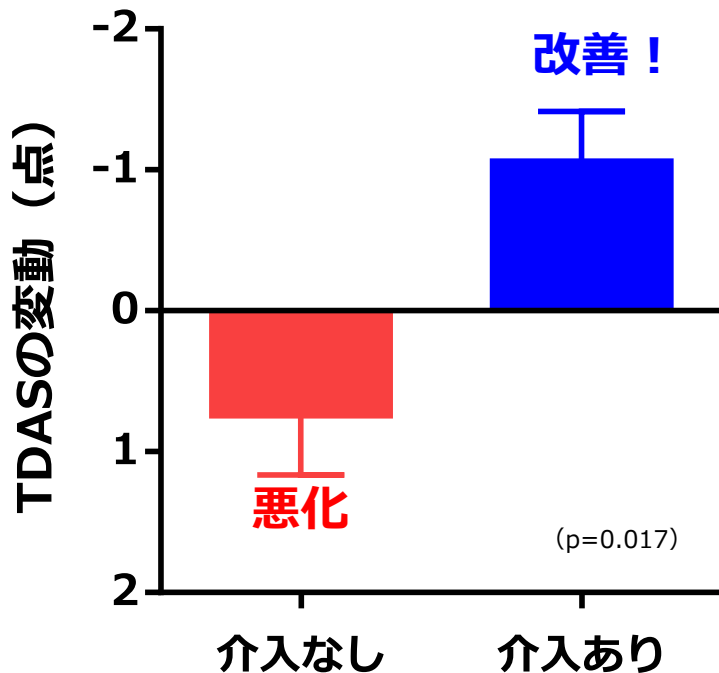
- 歌詞合わせゲーム
- 連想ゲーム ● クイズ
- 日本地図 ● 音読
- 全員しりとり など



解析結果

認知機能 (TDAS) の解析結果

とっとり方式認知症予防プログラムの実施により認知機能が改善！



(グラフ：平均±SE)

(統計：Mann-Whitney U検定)

【 TDAS 】

世界的に有用性が評価されている認知症評価スケール (ADAS) を一部改変し、タッチパネル化したプログラム。

鳥取大学医学部 浦上 克哉 教授が開発されたもので、簡易認知機能スクリーニング法「もの忘れ相談プログラム」と併せて、全国の関係機関で広く活用されている。

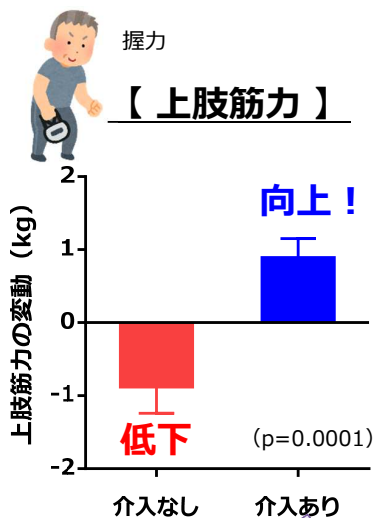


(日本光電工業株式会社HPより引用)

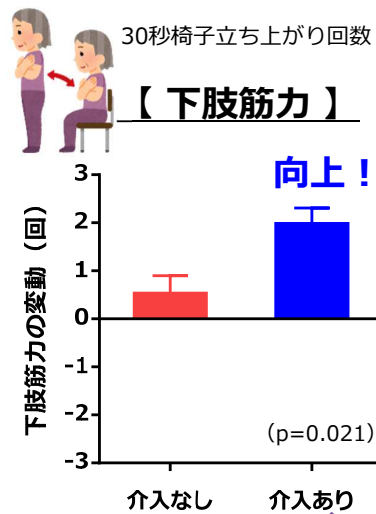
33

身体機能の解析結果

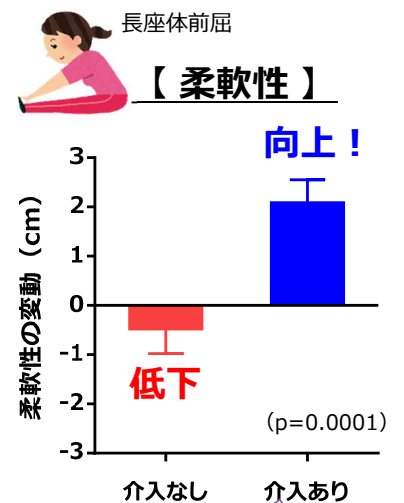
とっとり方式認知症予防プログラムの実施により身体機能が向上！



プログラム実施により
上肢筋力アップ!



プログラム実施により
下肢筋力アップ!



プログラム実施により
柔軟性アップ!

(グラフ：平均±SE) (統計：Unpaired-t検定、Mann-Whitney U検定) 34

教室参加者の声 (抜粋)

参加者に非常に好評！ 地域交流の促進にも！

- こういう機会では週1回が楽しみだった。体操も良かった。終わったらすることがなくなる。
- 自分だけ元気でもダメ、主人と2人食事や健康に気を付けて生活をしたい。主人が体操をしている時には習ったように声をかけながら行っている。
- 初めは認知症予防教室の言葉がきになった。通うようになって気にならなく、とても楽しかった。
- 週1回サロンに参加していた。この教室では頭の使うことが違う、頭がハッキリしてきた。生活にも積極的になった。歩いてみようと思う。
- 部落の仲間に声をかけて、集まって体操をしようかと思う。
- 検査に引っかかり、ここに来た。来てよかった。こういうところがあれば参加したいので教えてほしい。
- 体操は何をしていいかわからなかったが、習ったことを少しずつ続けたい。日本海新聞のナンプレをするようにした。
- 認知症について色々な資料を勉強させていただき、多少自分なりに物事が少し勉強になったと思います。
- 地区で話す人も少なかったですが、教室に来て笑いながら勉強していると、お宅訪問有り、野菜や花をいただいたり、教室に来てよかったです。
- おしゃべりできたのも大きな成果でした。私は運動・ゲームよりももっと大事なものを得たと思っております。スタッフの方、ありがとうございました。笑顔で接していただきうれしかったです。

35

柏耆町における「とっとり方式認知症予防プログラム」を取り入れた新しい教室への取り組み

★本教室 (週1回×4月間) 1教室 (定員15人) 【新規】

岸本地区

★フォロー教室 (月2回) 5教室 (定員20人) 【1教室増】

岸本地区 (2会場)、溝口地区、二部地区

日光地区を追加

★フォロー教室 (月1回) 2教室 (定員なし) 【新規】

岸本地区、溝口地区

※委託先：本教室・フォロー (月1回) …医療法人、フォロー (月2回) 町社協

※本教室は2018年11月から、フォロー教室は2019年1月から開始

【交通手段】
送迎なし
自家用車、乗合せ、徒歩、
町営デマンドバス等



※本教室のみ、移動拠点からのデマンドバス特別便を運行

研究参加者の新しい教室への参加状況

- ・案内者数 : 121人
- ・参加希望者数 : 116人
- ・参加取りやめ者数 : 5人 (日程が合わない等の理由により)
- ・教室参加者数 : 111人 (参加率92%)
フォロー教室(月2回) 56人、フォロー教室(月1回) 55人

研究参加者は
フォロー教室へ案内



・研究に教室の指導者として携わっていただいた作業療法士を講師に迎え、新しい教室 (フォロー教室月2回) の指導者養成研修を実施

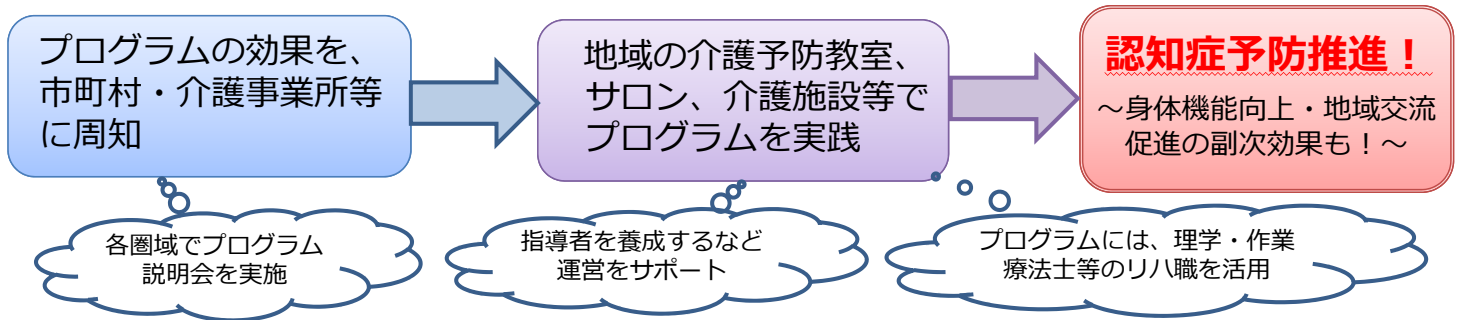
・教室を通じてボランティアスタッフを養成するよう計画



・新しい教室 (本教室、フォロー教室 月1回) の指導者は、研究時と同じ作業療法士による指導体制とした。

36

とっとり方式認知症予防プログラムの全県展開



【全県展開に向けた取組】

- 医療・介護・行政関係者を対象に医学的エビデンスを踏まえたプログラム説明会を実施し、**全県展開**！！
- プログラムの実効性を高めるため、プログラム指導者を養成し、導入をバックアップ
 - ・地域で主体的に認知症予防に取り組んでいる認知症予防リーダー（H29～県養成）も指導者として活用
- プログラムにはリハビリ専門職等を積極的に活用し、身体・認知機能向上の実効性を高める
- 教室で使用する知的活動プログラムの教材（クロスワード、パズル等）の整備をサポート
- プログラムを実施する市町村には、伯耆町での実践例をもとに、運営方法等をアドバイス・サポート
- 実施場所は市町村の介護予防教室に留まらず、介護施設や地域のサロン、老人クラブ、自治会活動等にも展開

37

とっとり方式認知症予防事業の関係者（順不同、敬称略）



■ とっとり方式認知症予防研究・開発普及協議会

- 鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座： 浦上克哉、河月稔
- 鳥取県福祉保健部長寿社会課： 長岡孝、向井京子
- 伯耆町役場健康対策課： 岡本健司、中原孝訓、有富千帆

■ 運動部会

- 鳥取大学医学部社会学講座病態運動学分野： 加藤敏明
- 鳥取県福祉保健部長寿社会課： 長岡孝、向井京子
- 医療法人 さとに田園クリニック： 安住慎太郎

■ 知的活動部会

- 鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座： 浦上克哉、河月稔
- 鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻： 竹田伸也
- YMCA米子医療福祉専門学校作業療法士科： 高梨悠一
- 琴浦町福祉あんしん課： 圓山千嘉子、林真紀

■ 座学部会

- 鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経内科学分野： 和田健二
- 社会福祉法人こうほうえん： 伊藤道美
- なんぶ幸福苑： 児嶋吉功
- 西伯病院リハビリテーション科： 田村篤人
- 伯耆町健康対策課生活相談室： 中原孝訓、有富千帆

■ 検査スタッフ

- 鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座： 河月稔、大学院生、大学生（ほか）
- 鳥取県福祉保健部長寿社会課： 向井京子
- 伯耆町役場健康対策課、福祉課： 中原孝訓、有富千帆、梶間和子、楠本京子、秦環江、本田典子、足立誠子、川口育美、北垣栄美子、瀬川佳奈子、多久和由恵、山上志保、馬詰美保子（ほか）
- 鳥取大学医学部社会学講座病態運動学分野： 加藤敏明、西村正広（ほか）

■ 教室運営スタッフ

- 養和病院： 金山雄気、田中卓
- 錦海リハビリテーション病院： 北山朋宏
- 大山リハビリテーション病院： 安井愛美、仲田奈生
- 米子病院： 永栄夏育
- なんぶ幸福苑： 作野巨
- YMCA米子医療福祉専門学校： 田住秀之、菊本理恵
- 皆生温泉病院： 大木結加
- ゆうとぴあ： 足立奈津江

■ Funding

- 本事業は日本財団及び鳥取県から協議会に対する助成金及び補助金を受けて実施

38